

令和5年度 第二回神奈川県立鎌倉高等学校 学校運営協議会 議事録

日時 令和5年12月21日(木) 14:30~16:20

場所 鎌倉高等学校 国際理解ホール

出席者(敬称略)

(委員) 田邊克彦、青木弘、永野征男、齋藤貴、牛見誠人、菅野喜八、川中典花、渡辺晃、岡田雅彦

(事務局) 岩崎幸代、椿みどり、長谷川千栄子、伊藤剛、石川比呂子、永山悦子、本間颯人、石山喜章、土谷優子、稲葉啓太、喜納悠大

議事録

【校長挨拶】

- 授業改善、キャリア教育、学力向上重点エントリー校、理数教育推進校、サポートドックの取組について報告・協議を進めていきたい。
- 令和4年度、5年度の2年間、本校は第三者評価の調査対象校であり、昨年度3回、今年度2回委員の訪問を受けている。
- 第三者評価の結果について、資料「⑤取組助言訪問の記録」によると、次のようなことが挙げられた。

学習指導要領の趣旨を生かした授業改善について

- ICTの活用について、生徒に関しては義務教育段階で活用してきているので、教職員が今以上に活用していかなければならない。
- 授業改善に対する意識が高まっている。
- SSHの取組みについても、この機を逃さずに進めていってほしい。
- 学校としては、研究授業や研修会という初期的なフェーズを超えて、実践的な授業改善のフェーズに入ったといえる。
- 現状では生徒自身の内面的な自己評価にとどまっているので、クリティカルシンキングに対する取組みをどう評価していくのかという指摘を受けた。

学習指導と進路指導の実現について。

- 第一志望宣言の取組みについて、家庭と連携して進めていることを評価された。
- 担任とSSWが連携して指導していくことのできる環境づくりをしてほしい。
- 生徒へのヒアリングにおいて、授業でグループワークやペアワークが多くの場面で取り入れられている。
- 対話型の学習を一過性のものにするのではなく、継続的に行っている。ICTを効果的に使用している。
- 不登校生徒について、問題が表面化する前の段階でSSWなどの専門職と連携して対応することが必要である。

- 教師力の高い先生方が多く在籍される学校であると捉えている。このような機会を生かして行ってほしい。

【学校運営協議会の開催にあたって】

第一回学校運営協議会の議事内容の確認

- 会長に田邊委員、副会長に青木委員が就任した。
- 神奈川県立学校に設置する学校運営協議会の運営等に関する要綱第 10 条で定められている学校設置部会として「キャリア部会」を設置、田邊会長により 12 名の委員が指名された。
- 「学校の教育計画」「教育課程編成」「学校組織の編成」「学校予算」「学校施設及び設備等の管理及び整備に関すること」については承認をいただいた。

学校運営協議会の組織について

- 評価部会については、この会議が兼ねている。
- キャリア部会については、本日の学校運営協議会の終了後に開催する。

【鎌倉高等学校の教育活動について】

- スポーツ大会、球技大会、合唱コンクール、修学旅行について、コロナ以前の形に戻して実施することができた。
- 部活動では、弓道部、室内楽部が全国で活躍。
- 即興型英語ディベート交流会（PDA）にも生徒が参加し、チーム 5 位の成績を残した。
- 短歌の宮柊二記念館長賞に受賞した生徒も数名排出。
- 公開研究授業、図書館の授業活用、自習室の活用等も進んできている。
- 地域貢献活動として、学校周辺の清掃活動を行った。
- 3月に海外研修旅行を予定し、キックオフオリエンテーションを行った。

○田邊委員：

- コロナ禍の中でこれまでの学校行事の流れが途切れていたと思うが、今年度実施に当たって支障はなかったのか？

○生徒会グループ

- 主に物品については、劣化等の問題はあった。やり方については、生徒自身が新しく自分たちがやりたいことを取り入れていった。先輩たちが SNS でつながっていたり、前年度に次回はこうしたほうがよいという資料を作っていたりしたので、新しいものを作り上げていこうという気概があり、やりきることができたと思う。

○渡辺委員：

- 昔はスポーツ大会ではなく、体育祭を行っており、縦割りの印象を非常に強く持っている。学年を超えた縦のつながりは非常に重要と考えるが、スポーツ大会を体育祭の形に戻すことはないのか？

○生徒会グループ

- 現在は考えていない。縦割りの考え方については、現状のスポーツ大会の中でも学年を超えた連携はある。

【令和5年度学校評価報告書（中間報告）について】

「1 教育課程・学習指導」について

○教務グループ

- 生徒の探究的な学びにつながる取組みと授業改善について、研究授業を実施し、その成果を職員全体で共有した。
- 7月に生徒による授業評価アンケートを実施し、各教科が改善に向けた取組みを実施した。（資料7ページ～10ページに中間報告有り）
- アンケートの項目6に関して、「かなり当てはまる」と答えた割合が50%を超えているかを検証した。
- 授業内にまとめや振り返りを行い、生徒に授業内で学んだことを整理させる時間を設けているということが共通事項として挙げられた。
- 12月の第2回生徒による授業評価アンケートの結果は集計途中であるが、それを踏まえて来年度はさらに改善をしていく。

○学習企画グループ

- 公開研究授業にて、タブレットの活用について研究・情報共有を行った。
- S S H申請に向けて、今年度3回研修会を実施。教員の意識向上に努めていきたい。
- 公開研究授業に関して、全体の研究協議の時間、研究授業者の選出について課題が挙げられた。

「2 生徒指導・支援」について

○生徒会グループ

- スポーツ大会や球技大会について、全員が応援できるような形態で実施することができた。合唱コンクールについても、全学年一堂に会して実施することができた。
- 生徒主体での行事運営ができ、特にアンケートでは合唱コンクールにおいて満足度の高い評価が得られた。

○生活指導グループ

- S N S 関連のトラブルについては今年度もあった。
- 今年度からは教育相談の体制が新しくなった。神奈川県としても自殺者が増えていることを背景に、県立高校においてS C・S S Wが原則として週1回勤務となった。

- これまでは独自のアンケートを実施していたが、新たにかがわサポートドックを活用するようになった。既存のアンケートと重複する部分がある等、課題が見られるので、整理をして取り組んでいきたい。
- 教育相談は継続して件数が多い。悩みを抱えていたり困り感を感じていたりする生徒に対して、しっかりフォローしていきたい。

○田邊委員：

- かがわサポートドックとはどういったものか？

○生活指導グループ

- 紙媒体でのアンケートから、神奈川県が作成した Web アンケートシステムになった。自動的に対応すべき生徒がピックアップされるような仕様になっている。まだまだ、改良の余地はあるが、アンケートの結果を踏まえて担任が面談を行ったり、SC・SSWにつなげたりしている。

「3 進路指導・支援」について

○キャリア支援グループ

- 学校推薦を希望する生徒・保護者を対象とした説明会を実施したり新課程に対応した入試についての情報について、2年生や保護者に適切に説明をしている。
- 第一志望を貫く指導を全ての学年で行っている。
- 実力テストの結果を活用した資料を全職員で共有し、面談に活用している。
- 教員も研究会に参加し、新入試の情報把握も行っている。

「4 地域等との協働」について

○管理グループ

- 学校HPに関して、情報の更新を行っている。今後は学習企画グループと連携しながら、理数教育に関する発信を増やしていきたい。

○生徒会グループ

- 藤沢支援学校鎌倉分教室は子供服リサイクルの取組みや、合唱コンクールの鑑賞などで連携した。

「5 学校管理・学校運営」について

○教頭

- Microsoft Teams を活用し、職員の情報共有の円滑化や事務作業の省力化を進めた。
- 今後も、ICT の活用による職員の働き方改革を継続して行っていきたい。

○管理グループ

- 防災訓練は2回実施。雨天だったため、実際に避難するような訓練は行わず、シェイクアウト訓練等を行った。

(協議)

○ 渡辺委員

- 指定校推薦を活用する生徒が減少しているのは何か理由があるのか？

○ キャリア支援グループ

- 生徒の第一志望を大切にしたいと考えている。推薦は、依頼が来ている大学の中からしか選べないことや、人数の制限があることから、第一志望をあきらめるのではなく、本当に行きたいところに行かせたい。その結果として、前年比 65%に減少した。

○ 齋藤委員

- 授業評価アンケートはどのように実施しているのか？
- 生徒の達成度の自己評価に関しては、個人差があるため、そういった考慮が必要。生徒が本当にどこまで力がついているのかについて、成果のアセスメントも必要なのではないか？
- 評価の視点について、〇〇を行う、実施した等になっているが、その行為自体が目的ではないので、その先に得られるものを追加で入れられるとよい。

○ 教務グループ

- 授業評価アンケートは4段階評価で実施。肯定的な意見は3以上と考えている。今後の振り返り等で、ご指摘いただいたことを改善していきたい。

○ 牛見委員

- 鎌倉高校の生徒は、どのぐらい自発的・主体的に行事の企画・運営を行っているか？

○ 生徒会グループ

- 合唱コンクールにおいては、リハーサルを直前に行っていると、他のクラスの合唱を聴くことができないという不満があったという昨年度の反省から、生徒の動線を変更するなど工夫して、より多くのクラスの合唱が聴けるように、教員に提案した。
- 新しい企画として、順位発表の際に、その曲の冒頭を生徒がピアノで弾くという試みを提案し、実施した。
- 生徒がトランシーバーを使って、誘導・運営を行っている。

○ 牛見委員

- スポーツ大会や球技大会は生徒に企画・運営を全面的に委ねるような考えはあるか？

○ 生徒会グループ

- 安全性などについても考慮しなければいけないため、全面的に委ねることはできないが、できるだけ生徒の意見を尊重して実施したいと考えている。

○ 青木委員

- 小学校、中学校との連携を通じて、それぞれの取組みを各組織で完結させるのではなく、継続して行うことも考える必要がある。

- 行事、授業改善、学校評価、進路指導、全てにおいてよい取組みができている一方で、持続可能な取組みにしていくためには、業務をスクラップする必要もあるのでは？

○岡田委員

- 学校はスクラップ&ビルドよりもビルド&ビルドなところがある。
- 鎌倉高校の中でそれをどうやっていくのか、生徒にとって何が必要なのかを考え、軽重を考えるのは我々の仕事であると考え。
- 校内での取組みを外部に発信していく必要もあると考えている。

○青木委員

- 縦割りはすごく大事という考えに関しては、別の場所でもできる。
- 小学校の授業を見ると、高校の先生の授業も変わると思う。ぜひ見に来てほしい。

○渡辺委員

- 教員が忙しいのではないか？教員のなり手不足という話もよく聞くが、自分を磨く時間などは取れているのか？

○岡田委員

- 職員の勤務時間については、時間外勤務が長い傾向にある。
- どう改善するのかについては、生徒への教育的意義とのバランスを考えながらまめていきたい。

○齋藤委員

- 生徒のために何かをやりたいと考え、やることは増えていく。これは大学も共通している。
- 年間計画を半期ごとの計画にすると、改善にもつながるのではないか？

○川中委員

- 教員には忙しい中、PTAにも寄り添ってもらい、楽しんで活動することができている。
- 成績がよく、指定校推薦かと思っていた生徒も第一志望を貫くという進路指導により、本当に行きたいところに向けて一般受検の勉強を頑張っている。

○田邊委員

- 第三者評価についても、高評価を得ていると感じている。今後もこの取組みを継続して行ってほしい。

【令和6年度～9年度までの新たな学校教育計画及びグランドデザイン等の策定について】

○岡田委員

- 令和6年度からの目標について、ご意見をいただきたい。
- 令和7年度のSSH申請を目指して取組みを進めていきたい。

○学習企画グループ

- 教員の研修会の結果から育成したい生徒像を、「総合知と科学的思考を活用し、課題の解決に協働的・実践的に取り組む人材」とした。
- 令和7年度からのSSH「文理融合基礎枠」の認定を目指していく。
- 具体的な取組み内容については、資料参照。

○岡田委員

- 学校のミッションについては神奈川県が策定。
- 学校教育目標及び計画策定時での課題について、学校で設定していく必要がある。

(協議)

○田邊委員

- これまでと大きく変わったところはあるか？

○岡田委員

- グローバルリーダーからサイエンティフィックリーダーへ変わった。
- 総合知についてはSSHの採用基準に合わせて変更している。

○田邊委員

- 特に意見がないので、案の通り、承認する。

【事務局から】

- この後キャリア部会を実施。
- 次回の学校運営協議会は、3月14日(木)に開催予定。

【校長より】

- 「令和5年度学校評価報告書(中間報告)」と「令和6年度～9年度の新たな学校教育計画」について、頂いた御意見を踏まえて、引き続き教育活動の充実に向けて、教職員一丸となって進めていきたい。
- 令和6年度からの学校教育計画については、本日頂いた御意見をもとに作成し、次回の学校運営協議会にて示したい。